

四辻堰・二堤 ハザードマップ

畠野地区 宮川

氾濫解析の前提条件

地震や大雨によって、万が一の場合池が決壊した際に、浸水が予測される範囲や浸水の深さ及び到達時間を「氾濫解析シミュレーション」により求めたものです。(決壊から最大60分後まで計算)

満水状態のため池の堤体が瞬時決壊(天端から池底まで)し、全貯水量が流出すると想定

※災害の状況によっては、表示されている範囲以外でも浸水する可能性がありますので、注意が必要です。(河川氾濫や内水氾濫は未考慮)



指定避難所
畠野農村環境改善センター

凡例

● 気象水の到達時間
ため池氾濫による最大浸水深
3.0m以上の区域
2.0~3.0m未満の区域
1.0~2.0m未満の区域
0.5~1.0m未満の区域
0.3~0.5m未満の区域
0.3m未満の区域
その他危険区域
土砂災害警戒区域

ため池諸元 ※ため池台帳より

ため池名	四辻堰	二堤
築造年代	明治時代	明治時代
堤高	1.8m (2.2)	1.4m (2.6)
堤長	46.0m	31.0m
天端幅	2.0m	1.5m
貯水量	2,200m³ (500)	1,500m³ (200)
受益面積	1.0ha	0.7ha
管理者	羽生 幸雄	長嶋 はるみ

※()内は、令和2年4月の計測値

※堤高()内は、天端高と池底高の高低差

津波・土砂災害・洪水に関するハザードマップ

ため池が決壊するおそれがある状況では、周辺で河川の氾濫や土砂災害、沿岸部では津波も発生する可能性が考えられます。佐渡市では、津波・土砂災害・洪水に対しても下記のとおりハザードマップを作成・配布しています。(佐渡市ホームページ「佐渡市防災情報」からも閲覧可能です)

●佐渡市地域防災マップ
(新穂・畠野(松ヶ崎除く)地区版) 平成31年3月作成



四辻堰

N

0

縮尺 1:5,000

100 200 300m